

第2回田浦保育園移管法人選考委員会 議事録

日 時 令和6年9月26日(木)

13時30分～15時45分

場 所 はぐくみかん会議室4

【出席委員】

坂梨 薫、塩塚 定雄、藤崎 啓造、宮田 丈乃(50音順、敬称略)

(※佐藤 真衣委員は欠席)

【事務局】

民生局福祉こども部子育て支援課 3名(有川課長、青木主査、宮本(記録者))

【委員会の成立確認】

委員総数5名中4名出席につき、委員会の成立を確認した。

【議 事】

- (1) 選考委員会条例改正について
- (2) 2次選考の合格基準及び採点表について
- (3) 応募法人のプレゼンテーション
- (4) 応募法人との質疑応答
- (5) 採点・審議

【配付資料】

資料1 田浦保育園移管法人選考委員会条例

資料2 田浦保育園移管法人選考委員会の傍聴に関する実施要領(案)

資料3 法人選考方法について

資料4 2次選考採点表

【審議結果】

- (1) 選考委員会条例改正について【資料1～2】

令和6年7月1日をもって、選考委員会条例の名称が「公立保育園移管法人選考委員会」から「田浦保育園移管法人選考委員会」に変更されたことに伴い、傍聴要領【資料2】を条例改正日と同日で名称変更する旨を提案した。

案のとおり了承された。

(2) 2次選考の合格基準及び採点表について【資料3～4】

事務局から資料3～4に基づき、2次選考の採点表及び合格基準について説明を行った。その後、プレゼンテーションに先立ち、応募法人から提出された副本（応募書類）の内容に係る各委員の所見について相互に確認を行った。

(3) 応募法人のプレゼンテーション

ここで坂梨委員長より傍聴者の入室が許可された。

1次選考（事務局による書類審査及び財務審査）を通過した応募法人（株式会社ベネッセスタイルケア）が提案書に基づき説明を行った。（15分以内）

(4) 応募法人との質疑応答（面接）

各委員から応募法人に対しプレゼンテーションに対する質疑応答（面接）を実施した。詳細は、以下の【議事概要】のとおり。

【議事概要】

*この議事概要は、委員等の発言を事務局において要点筆記したものです。

（宮田委員）

異年齢保育では、具体的にはどのようにクラス分けを行っているのか伺いたい。また、応募書類を見ると、実地調査希望施設（応募法人が指定管理者として運営中の現在の田浦保育園）には障害児が8名在籍している記載されているが、この8名について、異年齢保育の際どのような配慮を行っているのか。

（応募法人）

異年齢保育は3歳児から5歳児までを対象としている。各学年を2分割し、異年齢保育のクラスを2つ設けている。原則3歳～5歳の3年間はクラス替えを行わず、園児が落ち着いて過ごせるよう配慮しているが、園児の発達段階や子ども同士の相性などに応じ、クラスの構成は適宜調整している。障害児についても、保育士を加配して対応している。

（坂梨委員長）

実地調査評価基準の自己チェックの中で、実地調査希望施設ではバリアフリーへの配慮を「×」と評価していたが、新園舎整備にあたって、バリアフリーについてどのように対応する予定なのかお伺いしたい。

（応募法人）

新園舎（2階建て）にはエレベーターを設置しないため、車いすには基本的に人力で対応することになると思われるが、建築基準関連法規で規定されているバリアフリーの基準に

については適合させる予定である。

また、弊社では社内の独自基準を取り入れ、障害の有無を問わず園児の安全に配慮した園舎設計をしており、今般の新園舎整備においても同様に実施する予定である。

(坂梨委員長)

実地調査希望施設では看護師・保健師などの医療関係者は配置していないようだが、移管後に配置する予定はあるのか。

(応募法人)

横須賀市の職員配置基準として、看護師は必置ではない。また、他自治体では乳児クラスに看護師を配置した場合、保育士を配置したものとみなす規定を設けている場合もあるが、横須賀市ではそのような規定がなく、必要性は感じているものの看護師の配置がしづらい状況ではある。

看護師は配置していないが、弊社の安全衛生基準においてリスクマネジメント定例会を設置するとともに、園ごとにリスクマネジメント委員を置き、本部と園が連携しながら事故やケガの対応策を講じている。さらに、感染症予防についてもマニュアル整備や研修実施などの対応を行っている。

現状、看護師なしでも十分安全面に配慮した運営ができているという認識ではあるが、今後は弊社が市内で運営する別の園と共通で1名看護師を配置し、各園を巡回するなどの方法も検討したい。

(藤崎委員長職務代理者)

民営化後は、通信教育（こどもちゃれんじ）などのベネッセの特色を取り入れた保育を行う予定はあるのか。

(応募法人)

確かに、社内でも保育園事業と通信教育を連携させたいという声はある。しかし、通信教育は、家庭において1人で取り組むことを想定して作られているものであることから、保育園では集団生活ならではの保育に取り組みたいと考えている。

社内の別事業のノウハウを保育に取り入れている例としては、各園で使用している発達チャートはベネッセ教育総合研究所が作成したものである。保育園では、発達チャートをベースとして、子どもひとりひとりの個性を考慮しながら指導計画を策定している。

(塩塚委員)

新園舎予定地の前面道路（県道）は現在でも早朝から大型車が通行しているが、田浦小学校が長浦小学校に統合されることが決定し、登下校時に長浦小学校方面への交通量がさら

に増えることが予想される。そこで、園児の保護者が車両で送迎を行う際の安全対策をどのように講じるのか伺いたい。

(応募法人)

移管法人選考に通過した後に正式に設計事業者を決定する予定だが、交通に支障が出ないよう相談しながら設計を進めたい。また、歩道を横切る形で園の敷地に車両が進入することになるため、歩行者の安全に配慮し、園の敷地への出入り口を見通しがきく構造となるように工夫したいと考えている。

(坂梨委員長)

実地調査希望施設で雇用している職員は、移管後も新園舎において引き続き雇用するのか。

(応募法人)

移管後は現在より定員数が減少するため全員の雇用継続は難しいが、基本的に引き続き雇用する方向で考えている。

(宮田委員)

園のしおり（重要事項説明書）の中で、歯科検診は年1回実施するとあるが、学校保健安全法施行規則に規定されている年2回以上実施しなければならないのではないかな。

(応募法人)

令和7年度以降は年2回実施できるよう体制を整える予定である。

(宮田委員)

人材育成の取り組みの中で、4分野の職務分野別リーダーのいずれかを担当する旨が記載されているが、リーダーは他の職員に対してどのような役割を果たすことになっているのか。

(応募法人)

新卒以外は全員がいずれかの部門でリーダーを経験し、具体的な課題に取り組む目標を立てることで、職員が相互に良い影響を与え合い、研鑽できるような仕組みとなっている。

(坂梨委員長)

応募書類の中では地域との連携について触れられていないが、何か具体的な取り組みは考えているのか。

(応募法人)

現在の田浦保育園は民家から離れているため地域との連携を取りづらい立地であったが、新園舎は田ノ浦公園の敷地内に位置するため、公園のスペースを利用して地域と連携する取り組みを行いたいと考えている。具体的には、地域の方々と一緒に草花を育てたり、広場に遊びにきた保護者やお子さんにお声がけをする中で地域との関わりを深めるなどの方法を検討している。またコロナ禍を契機に長浦地区の高齢者と交流するイベントを中止していたが、今後復活を検討している。

(5) 採点・審議

応募法人及び傍聴者退室後、採点・審議を行った。

① 2次選考の通過条件

ア 参加委員の評価点の合計点が満点の60%以上であること。

イ 参加委員の評価の中にD評価がないこと。(評価はA・B・C・Dの4段階)

② 2次選考の採点結果

委員4名(5名のうち1名欠席)による選考の結果、合計293点(320点満点の91.6%)となった。また、参加委員の評価の中にD評価の該当もなかったため、株式会社ベネッセスタイルケアが2次選考を通過した。

以上